

司会 学生の立場として、実際にまちづくりに参加した感想は？

木村（瑛） 学生が参加する効果として、自由な立場でさまざまな視点から、街の活性化の問題に取り組める利点があると考えています。商売と直接利害関係のない人でもまちづくりに参加することは必要だと感じました。また、個人的な意見では、私たちが今後教員として総合的な学習の時間の授業内容を組み立てていく上で、町内会や商店街などから協力をいただく場面が少なくありません。今回の経験は、子どもたちが、地域社会の一員として、地域の特色や人のつながりなどを具体的に理解していくための教材研究としても、価値あるものだと実感しています。

区長 地域においてさまざまな人たちのつながりを深めることはとても大切なことです。例えば、最近、広がりを見せている安全で安心して暮らせるまちづくり活動はその一例です。近ごろ、子どもを巻き込んだ事件、事故が全国



富士メガネ新琴似店内にある「ほっとひといきコーナー」で区長タウンミーティングを実施

的に増えています。区内では、子どもたちの登下校時に通路や公園などを積極的にパトロールするなど、学校や町内会、商店街などが連携して積極的に取り組んでいただいています。

木村（水） 今回の活動を通じて感じたことは、私たちはアイデアを提案できても、実際に人や物事を動かすことは難しいということでした。寺本理事長や林店長のような地域の人たちの協力があって、

初めて形になることを痛感しました。今後、自分が教員になり、子どもを教える立場になったときにも、多くの人たちの協力を得ながら、子どもたちにとって、より良い授業を作りあげたいと思います。

区長 こうした運動をいかに続けていくかが大切なことですね。以前、商店街は街の顔でもあり、地域の皆さんが交

● 小さなともしびを大きく

流を深めた場であったと思います。まちづくりという意味において、商店街は欠かすことのできない存在であると考えています。これから、地域と一体となって商店街を活性化する方法を考えていくことが重要な視点だと思っています。

林 小さなともしびを少しずつ大きくするように広めることが大切です。今、商店街が進んでいるのが「新琴似まちかど文化祭」です。これは、店舗の空きスペースを利用して文化活動を行うものです。具体的には、地元の小学校に通う児童の作品などを展示し、多くの人たちに見てもらうことで、地域のつながりを身近に感じてもらうのが目的。これは「ほっとひといき運動」の輪が広がったからこそできたものだと思います。

木村（瑛） 商店街の皆さんの温かい協力をどのように生かしていくのか、また、大学の再編成の影響を受けている中で、この運動をどのような形で残していけるのかなど、自分たちの課題は多く残されています。今回の機会を通じて新琴似地域の方々のつながりを貴重な財産としていきたいと思えます。この運動が区全体に広がるようなモ

デルになればうれしいですね。
区長 北区は歴史のある地域であり、文化の面でも開拓の時期から受け継がれてきたさまざまな魅力があります。最近、人のつながりが希薄になっていけると言われている中、このような取り組みが北区全体に広がるよう、多くの皆さんに知っていただくために情報を発信することは、区としての大きな役割だと思っています。今回は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。



たけむら しんいち
竹村 真一【司会】
北区委市民部総務企画課 広聴係長

誌面の都合上、掲載できなかった内容については、北区ホームページに掲載します。

<http://www.city.sapporo.jp/kitaku/>